

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、私、3番上田雄一の一般質問をさせていただきます。

すみません、風邪を引いておりまして、体調管理がうまくいかず、せきや鼻や多々ありまして、皆さん大変聞き苦しい点があるかも知れませんが、よろしく願います。

先輩諸氏とは違いまして、若輩者で経験不足な私でございますので、自分自身の議員としての資質を向上するために、一度も欠かさずこの場に登壇させていただいております。同じように一度も欠かさず登壇されている松尾陽輔議員もおっしゃっていましたが、私も早くそういう位の議員になれるよう精進してまいりたいと思っております。

そういう中で、今回の議会が、私、議員として活動させていただきまして、もう早いもので20回目となります。きのうも職員の皆さんに最後の最後まで勉強をつき合っていて、いろいろと苦言を言っていただきまして、その苦言も私自身も真摯に受けとめて、おまえ、がんばったほうがもっとよくなあばいというごたるふうで、ありがたい御指摘もいただきまして、その辺を胸に頑張っていきたいと思います。

それでは、今回も武雄市の今後の方向性についてというふうに通告させていただきましたので、質問させていただきます。

まず1点目、子育てについてであります。

子育てについて、その中でも1点目、皆さん御存じの子ども手当についてでございます。

現在、国のほうでは、継続か、廃止か、また廃止になったら児童手当の復活、またさらにはそれを増額するか、しないかといったさまざまな議論がなされているようであります。この子ども手当や児童手当の中身を具体的にどうするかといった政策の中身が議論されることは非常にいいことだと思いますが、私が感じているところは、議論の中身が結局のところ政局になっている。私自身、非常にもうこれはけしからんことだと思っております。きょう現在、本当に国の状況は目まぐるしく変わっているような状況ではあります。答弁できるどころ、またそうでないところ、あるかも知れませんが、この子ども手当が今後一体どういうふうな方向に進んでいくのか、まずこれについて確認をしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

子ども手当についてお答え申し上げます。

もうけしからんですね、自民党は。これはブログにも書きましたけれども、これ本当に子ども手当ぐらいは賛成せんばいかんですよ。そうせん限り、確かに松尾陽輔議員から指摘があったように、公明党さんもおっしゃっていましたが、これは恒久法案にすつとが筋やったはずですね。しかし、それを今さら言っても仕方がない。それは恒久かどうかというのは

関係なかですもんね、国民からすると。なかんづく子育て中のお父さん、お母さん方は関係ないですよ。これを政局に持っていくというのは断固反対です。その上で見通しを言うと、多分廃案になります。もう前原さんが抜け、今度は厚生労働大臣、これは子ども手当を所管する大臣ですけれども、もうふらふらですもんね。ですので、これは廃案になったときにどうなるかという児童手当が戻る。戻ったときに額が下がる。なおかつ、もうマスコミもこれは正確に報道していただいていますけれども、何というんですかね、扶養控除、控除の部分というのがなくなっとうわけですよ。そいけん、実質、上田議員さんたちは増税になるわけですね。これは子ども手当じゃなくて大人手当ですよ、逆大人手当。ですので、もうこういったことをやっぱり政局にして絡めるべきではないと思いますし、私はこれはブログ等でもツイッターでも書きましたけど、これは物すごくやっぱり反響ありますね。ですので、そういう意味で、これはやはり国民生活の根幹をなす部分でもありますので、これはぜひ自民党さん、これは多くの、きょう見られていると思いますけれども、ぜひ賛成をしていただきたい。その上で、是は是、非は非というふうにおっしゃっていただきたい。これは地方交付税も同じです。もう町村信孝さんなんか反対と言いよんさあですもんね、「新報道2001」を見よったら。これはもう反対ですよ、私は。ですので、是は是、非は非で言ってくださいということを申し上げたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

いや、もう本当におっしゃるとおりですもんね。子ども手当は、中身自体は賛否両論もちろんありますよ。子ども手当自体がいいのか悪いのかというのはあります。ただ、子ども手当をなくして、扶養控除もなくして、児童手当でということ、これがもう市民の生活に直結するわけですよ。高所得者の人はまだいいと思いますけど、やっぱり武雄でもかなりの数の低所得者の方がいらっしゃるわけですよ。なおかつ、さきの選挙を思い返せば、私が子育て世代の年代だからかも、そうかわかりませんが、はっきり言って扶養控除の廃止と子ども手当とてんびんに乗せて、うちはプラスやマイナスや、そういう方たくさんいらっしゃいました。民主党政権になったらプラスになると、マイナスになると。自民党とどっちがよかとして、そういう話ですよ。これはもう市民の生活に直結していましたから。で、23年から所得税の扶養控除がなくなっているということで、ここら辺の関連性からちょっと質問をしようと思っておりました。自民党政権から民主党政権にかわって、子ども手当は入りましたけど、扶養控除は廃止しますよ。それがまた児童手当になるとなると、完全にただ扶養控除をなくしただけでしょう。どうなんですか。そこんたい、もう一回確認をします。

○議長（牟田勝浩君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

国は、子ども手当を出すから所得税のゼロ歳から15歳までの年少扶養控除を廃止しますよというふうにしたわけです。それで、所得税については平成23年1月から、住民税は来年の1月から反映されるというふうになっていたわけですが、今回のこのような状況になるということを考えると、子ども手当と扶養控除は一体のものであったわけですが、これはどうも整合性がとれないと、そういう状況になっているということでございます。

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

もう全く納得いかないうような状況です。もし、先ほど、廃案の可能性が非常に高いんじゃないかという流れの中で、子ども手当がなくなって、廃案で児童手当に戻る、そうなったときの武雄市の対応ですよ。しかも、子ども手当を支給するためにシステムの構築だったりとかって、もうどこの自治体もそれにかかっておるわけですよ。その費用が1年で、はっきり言うぎ、もう無駄になってくるっちなかかなと、何もならんやっただというごたるふうになってくっちなかかなと言いたいところもあるとですけど、それはちょっとさておいて、児童手当にしる、子ども手当にしる、従来の支給月は6月、10月、2月だと思います。今3月ですよ。3月から、もう次、第1発目、6月の支給月がもうすぐ近づいてきておるわけですよ。となると、もう何か月しかなか中で、子ども手当になるのか、児童手当が復活するのかって、まだ見えとらんわけでしょう。私もいろいろよその自治体のホームページとかをずっと見ながら調べよったとですけど、6月に支給はもう難しいと、もう今の時点でコメントば出している自治体もあるごたるふうな感じですよ。はっきり言って、もう国の動きによって地方は完全に振り回されているような感じなんですけど、それについては武雄市で6月支給、可能なのかどうなのか、答弁をお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

馬渡こども部長

○馬渡こども部長〔登壇〕

システムにつきましては、広域圏で武雄市は処理をしております。既に破棄をされておりました。ところが、改修すれば使用可能ということでございますので、ただ、改修には2カ月程度を要しますということでございました。そういうことで、当然改修すれば費用もかかることにはなりますけれども、受給者の把握とか周知とかに努めまして、子ども手当、児童手当、どちらになっても6月の支給には間に合わせたいというふうには考えております。

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

システム改修にまた予算、費用がかかると。もうでたらめやなかですかね、何かはっきり言って。

〔市長「でたらめ」〕

ちょっと何とも言いようがないような状況であります。もうとにかく生活に直結している部分、特に私たちのような年代が若くて所得が低い方には生活に直結している分がありますので、6月、10月、ずっと支給月が、従来の方がありますので、ぜひそこら辺は対応をお願いしたいと思います。

それでは、子育てについて、次の話題に入りたいと思います。

次、子ども・子育て新システムについてであります。

これも、各種報道や議論の過程等がホームページ上に掲載されておりますので、皆さん、ちょっとわかっている、結構わかっているという温度差がいろいろあるかなと思うんですよ。子ども手当もそう、はっきりまだ決まっていない状況で、なかなか言える部分、言えない部分、あるかと思うんですけど、この子ども・子育て新システムも今まさに議論の最中だとは思っていますよ。ただ、これが25年の実施を目途にいろいろ議論をされておりますけど、中身を見ると、物すごくちょっと違和感のあるとですよ。認識として、いい面もあるけど悪い面もあるといったような賛否両論が、もうホームページ上でも結構いろんな意見があって、これについてはまだ未確定で、もちろん議論されている最中ですから、言えること、言えないこと、あるかと思いますが、現段階で、その過程をずっと私も調べよったら、非常にこれはわかりづらう書いちゃあわけですよ。もっと、ぼとっと書けばよかるといいうぐらいにですね。これについての詳細を伺いたいと思いますけど、この新システム、つまり幼保一体化のこども園構想ですよ。これは、従来は保護者が市に対して子どもを保育園に預けたい。その預けられた子どもは、市が委託先の保育園で、こちらで見ますよ、見てもらいますよというような仕組みだと思っていますよ。これが保護者と保育者とで直接契約制になったり、保育料の応益負担、かなり大きな制度の変更になるんじゃないかなと言われていると思うんですよ。これによると、市による保育の実施義務というのはなくなるんじゃないかと。そうなると、市場原理が働いて、経済的な理由とか、また施設側の理由で実際の園を、保育園を利用できない児童が出てくるんじゃないかと危惧さえしております。つまりそのセーフティーネットが壊れてしまう環境が生まれるんじゃないかと。もっと極端に言えば、社会的弱者が全く無視される状況に陥るんじゃないかと思っておりますけど、これについて市の考えをお聞かせ願いたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これね、民主党政権に声を大にして言いたいですね。これは零点どころかマイナス2万点

です。まず、もう出方から間違っています。認定こども園の理論的な補強をしてくださいということで、これは国会で議論になった。いきなりこども園て出たですもんね。それだけしておけばよかったのに、また厚生労働省、長妻さんもとんでもないですね。ここに、わかりにくくなったのが、認定こども園のほかに2つの柱が加わったんですよ。幼児教育の振興という1つの柱。で、先ほど申したこども園ですよ。それともう1つプラスアルファ、次世代育成支援改革って、わかりにくかとかわかりにくか、わかりにくかば呼んだけん、0.8掛け0.8掛け0.8でマイナス2万点になっておるとですよ。その上で、これがまた、22年6月29日に少子化社会対策会議において子ども・子育て新システムの基本制度案要綱を決定しんかったわけですね。これは独裁ですよ。その上で詳細な検討を行い、平成25年度から新制度の施行を目指すということ、我々知っていますかね、こんなこと。TPPと一緒に、もう本当に思いつきですよ。もうどなたの議員と一緒にと言いませんけどね。

ですので、その中で制度の主な柱としてこれをさらに細分化して言うと、幼稚園と保育所を一体化するこども園の創設。それと、上田議員からこれは問題だと御指摘のありました保護者が保育施設を選ぶ、その上で利用を申し込む直接契約制ですね。ですので、ここには実際、園の側の意向が働くわけですね。この人は払ってくんされんけんがもうとりませんと。子どもの意向より親の意向が働くわけですよ、あるいは園の意向が強くなるわけですね。これは本当にいいんですか。

それともう1つが、保育料を所得に応じて負担する応能負担から利用に応じて負担する応益負担、これは必ず利用料上がりますよ。その上で多様な事業者の参入促進ということになったときに、我々が審査をする、あるいは本当に継続してやっていただけるかってわからんですよ。ですので、そういうことをもう玉石混交のごとしんさるわけですよ。

それと財源の問題です。これが多分一番大きくなると思うんですけど、もう厚生労働省もとんでもないですね。政権が混乱したときに起こりがちな議論がここなんです。自分たちで財務省から文句言われとっけん、削れ削れと。で、自分たちは削らんばいかんということで、どこに押しつけるかといったら地方ですよ。なかんずく、これは保護者の皆様方に負担増という形ではね上がるわけですね。これは許しちゃいけないと思いますよ。ですので、私は、事務方では、いや、こういうメリットもちょっとはあります。ありません。だから、もっとやっぱり国民的な議論ばせんばですよ。だから、保育とはどうあるかって、家族とはどうあるべきかって、その上で足りん部分というのはどういうふうにすべきかというのをないままに、これこそが本当の役人主導だと思います。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

もうまさにそうですよ。もう役人主導ですよ、これは多分。私が感じているのは、この話は自民党政権からもちよっとあつたらしかですもんね。それで、民主党政権でも変わっておらんと。あれだけ政権が交代して、自民党のすることは全部反対と民主党が今しよる。で、民主党がしよることは全部自民党は反対というごたる流れでしょう。でも、この話は何も消えとらんわけですよ。結局、これは役人主導だと私は思います。よう読めば、私がない知恵を振り絞ってずっとこの文章を理解しようとしよったら、結局、保育に係る予算ば減らしたいだけやなかとですか、これは。

〔市長「ピンポン」〕

どうですか。そこんたい、私、まさにそうだと思いますけど。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

もうそのとおりなんです。基本的にこれね、どこが決めよるかというぎ、厚生労働省じゃもう決めきらんとですよ。もうあんぽんたんだから。どこが決めてるかって、これは財務省です。財務省が全体の社会福祉予算がこれだけ、これは防衛予算も話題になっておるですもんね。防衛政策がこうあって、これで武器とか装備品とかをこういうふうにしたいということじゃなかわけですよ。私もいたからよくわかります。もともと財務省様様がこれだけを、例えば、社会保障費に使いなさい、防衛予算に使いなさい、もうシーリングで決まっておるですもんね。そいぎ、厚生労働省はどういうふうにするかというぎ、今、高齢者の皆様方の社会保障費というのはどんどん上がるですよ。それで、あと医療費が上がっている。となると、削るところはどこかて、ここなんです。だから、本当にもう弱い者いじめですよ。もう厚生労働省は私は解体すべきだと思いますね。それぐらい言わないと、もうあの役所というか、霞が関は動かないです。民主党に、私もちよっとだけ嫌われていますけど、一縷の期待はしましたよ。だけど、自民党のときよりひどい。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

市長の今の答弁を聞いて、もう本当に安心しました。となると、これは25年から施行というようにして今動きよるわけですよ。それに対してどうですか。やっぱり声ば、もうとにかく今の段階からどンドンで声を上げていかんと、この制度がまかり間違ってもした日には子どもたちがかわいそうですよ。そこんたい、決意をお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これこそ地方議会が声を上げるべきだと思いますよ。やはり議会というのは多様な意見の反映、鏡の場だといったことにすると、その鏡の場の皆さんたちが、いや、これはそうだねということであった場合に、ぜひこれを内閣に届けると。それと、私は首長という立場がありますので、これについてちょっと問題認識を新たにしたいのが、やはり上田議員の質問から私も問題認識を新たにしました。これが進んでいるというのはなかなか、すみません、私も600ぐらい項目を掲げていますので、上田議員の質問通告があって勉強したときに、これはとんでもないというふうにしたわけですね。ですので、これをきっかけとして、私も声を大にして言います。幸いにして、今、私のブログは1日1万人の方が見られております。ですので、ブログだとか、ツイッターだとか、あと私は市長会ではなかなか浮いていますが、市長会だとか、ありとあらゆる場でこれはおかしいと言っていますので、ぜひ議会とこれはタグを組んで、子どもたちのために、あるいは子どもをきちんと育てようという親御さんのためにも、それを我々は声を大にして言う必要があるだろうというふうに思っていますし、これは佐賀県内の国会議員の皆さん方にもきちんと言わなきゃいけないと。これは決めるのは国会なんですね。ですので、国会の場できちんと議論をしていただくということ。その観点からいうと、佐賀県議会はやっぱり見識ありますね。武雄市内から石丸県議さんと稲富県議さんが出られておりますけれども、見識がある。もう現に反対の決議をされていますので、こういった姿勢については私自身も見習う必要があるだろうと、かように認識をしております。

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

もともとの発端は待機児童の解消から生まれているんですけどね。生まれているようなんですよ。でも、よう見よったら、ただの今あるとにどんどんどんどん子どもを押しつけて入れるだけやけんですね。もう子どもたちが本当にかわいそうですよ。ぜひそうお願いしておきたいと思います。

それでは続きまして、教育について入りたいと思います。

教育について、毎度毎度、この席で高校問題、高校誘致の必要性というところを訴えてまいった私でございますが、今年度、武雄青陵中学校の受験における状況を確認したいと思います。今年度の市内の小学6年生全体の数と、また武雄青陵中学校合格者、進学者の数をお示しいただきたいと思っております。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

お尋ねの青陵中学校への進学者でございます。合格者80名で実際に進学した人が78名、市内小学校の6年生が553名であります。実際の受けた人、そしてその合格率というのは41%という状況でございます。

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

市内小学生が553名で、うち80名が合格、78名が進学という数ですね。であれば、78名が進学というところでいけば、それ以外の475名の子はこの3年後に高校受験を迎えるわけですよね。その子たちは、市内で考えれば、475名の市内の子どもたちは120名募集の武雄高校、狭き門の武雄高校へ行くか、もしくは市外の高校へ行くことになると思うわけです。ちょっと聞くところによると、武雄青陵中学校の受験の状況がどんどんどんどん広範囲になってきているというふうに聞くわけですよ。もちろん武雄の子は受けるでしょう。受けたい子は受けるでしょう。ただ、武雄市外の子が、それがずっとどんどんどんどん広がっていったというふうに聞いておりますけれども、これについては状況はいかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

青陵中学校に確認もしたところでございますが、確かに広範囲でございまして、23年度は44小学校から青陵中学校へ進学してきているということを聞いております。

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

44校ですね。44の小学校から受験となると、市内はたしか11校ですよ。4分の3は武雄市外の子がどんどんどんどんずっと受けてきているというような、広範囲になればなるほど、地元の武雄の子どもたちが行くには、よりどんどんどんどん厳しい環境になっていくんじゃないかなと。先ほど答弁ありました合格率が41%、10人受けて4人が合格と。それからずっと計算していけば、大体190名から200名弱ぐらいが受験をしたんじゃないかなと。その中で78名、市内の子が100名以上、やっぱり生徒が青陵中学校に行きたかったけど、行けないという現実がもうあるわけですよ、ここにはっきりと。それはそれでちょっと置いておいて、それに比べて新武雄高校のほうをちょっと見たところ、後期試験の志願者数が、募集定員が122名に対して120名の98%と、これはいわゆる定員割れですよ。定員割れという現状があって、保護者の中も、また子どもたちの中にも、私が耳にするのが、当たり前した高校の武雄にあるぎねと言いきるわけですよ。当たり前したてどがん意味やと思って、ずっと話を聞いていると、中高一貫の高校に新たに高校として行かんでもよかばいと。どっちかといっ

たら、高校に入って、みんな同じラインで用意ドンでスタートできて、そういう高校にやっぱり行ったほうがよくなかろうかと。内進組、物すごく差のあったりするとやなかとって、もう全く入って見ないとわからんけんですね。そういう声がやっぱりよくあるわけですよ。その話を聞いていると、まさにそれがこの結果も一つの要因なのかなと。中学校の段階からやったら行きたかけど、そこで行けんやったらもう別の高校がいいかなとか、ケースはいろいろあると思いますよ。ただ、そういう人が結構いらっしゃるのは、私、聞き及んでおりますので、そういう話を聞けば聞くほど、やっぱり武雄に武雄青陵高校があつたらなと今でも思うわけですね。この辺はまた必要性というのは訴えていきたいなと思っていますけど、どうですかね。その辺の情報、声というのは教育委員会のほうには届いたりしていますか、保護者の方の声から。どうですか、答弁できますか。お願いします。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

これまでの議会でも、高校の問題についてはいろいろ御指摘いただき、あるいは質問等いただいていたところがございます。出過ぎたことかもしれませんけれども、武雄市出身の子どもたちが約半数以上は武雄高校も行っているわけでありまして、極力、青陵中、武雄高校とも連携をとって、中高の一貫校ができた中でどういう子どもたちの育ちが見えるのかということで、私どもが心すべきこと等も聞きながら対応しているところがございます。そういう意味では、片方に、やはり別のまた受け皿の高校が欲しいというのもこれまで聞いてはきておりますし、また先般、先般というか、前の議会の前には教育委員さん方ともども、また県のほうとも話をしたところでもございます。そういう意味で、十分私どもも意見は耳にしております。

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

今後も粘り強く県のほうに声を届けていただきたいものであります。学校誘致の必要性は私もずっと訴えてきておりますけれども、この学校誘致、仮に実現できたとしても、やっぱり相当の時間はかかるわけですね。その上で、実現するまでの間のその時代の子どもたちにとっての教育環境というような環境整備は、もうやっぱり考えていかないといけないところでありまして、こういう話をしているところもあるんですが、聞くところによると、高校の選抜試験の実施要綱が平成24年度、つまり現在の中学2年生から大幅に変更になると伺っております。これは具体的にどのように変わるのか、これについて伺いたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

御存じのとおり、本日とあす、高校入試があつておりまして、市内の子どもたちの健闘を祈っているところでございます。そういう中でございますけれども、来年度の入学者選抜の方式がこれまでとかなり変わりました、これまでは2月に前期試験とか推薦入学ということであつておりましたのが、名称も間違つたらいけないということで特色選抜と、特色のある選抜ということで、そういう名称になっております。この中に、これまでの推薦入学に当たるようなスポーツとか芸術での推薦もここに入つてまいります。これは、2月の実施というのは変わっておりません。それから後期試験、3月に実施する、今あつている後期試験でございますが、それを一般選抜という言い方で分けをしてあります。一番大きな違いかなと思つておりますのは、これまで前期試験とか推薦とかは、特別、学力の検査はあつておりませんで——あつておりませんと言つたら語弊があるかわかりません。適性検査という名称であつていたかと思つます。ところが、今回は全部の県立高校が学力検査をします。割合は50%は考えるということでございます。それともう1つが、全部の県立高等学校で特色選抜をします。ですから、地元の武雄高校にしましても、募集定員の10%から20%は特色選抜、いわゆる2月に選抜のをやるということでございます。これはもう全部の高校がそういうことでやるというふうになっております。そのあたりが主な変更点かなというふうに思つております。

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

従来前期試験、推薦がなくなつて、そのかわりに特色選抜というのが始まると。後期試験は一般選抜で呼び名が変わつたりと。従来、適性検査などであつたものが、すべてもう学力検査が実施されるということですね。ということで、ちょっと1点確認なんですけど、要は複数回の受験の回数を確保されるということですね。だとちょっと認識しているんです。極端に言えば、子どもたちが県立高校を受けるときに、まず2月に特色選抜を受けます。で、もしちょっとだめだったら、10%から20%の枠ですべての高校がそれを設けられるわけですね、特色選抜されるわけですね。もしそこで受けてだめだった場合に、恐らく3月に実施される後期試験をまた受けると。だから、2回受けられるわけですね。県教委のホームページとかを確認しよつたところ、定員割れした高校は2次募集をさらに受け付ける。もしそこでまた一般選抜でだめだった子は、チャンスがあればまたそつちもと、最大3回受けられるような制度の変更になるのかどうなのか、そこをちょっと確認しておきます。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

お話のとおりでございます。複数回が確保されたと。つまり県立高校は、どの学校でもそういうのを複数回受けられるという可能性が出てきたということでございますね。それと、これだけやったですかね。それでよろしいですかね。

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

ありがとうございます。特色選抜については、私もずっと調べよったところ、まだまだ、例えば、指定校枠とか、そういうところがいまいち不透明なところがあって、記載もあるところ、ないところがちょこちょこあったような感じで思っているんですけども、であれば、これはまだはっきり決まったところではないということで、ある程度は決まっているんじゃないかというところで、その中で県教委の方針とかという、ずっとこう書いてあったんですけど、当該方針に基づき、各学校や地域の実情、社会情勢の変化等を総合的に勘案しながら具体的な実施方法をというような記載があったわけですよ。となると、これは先ほどの話にちょっと絡ませるんですけど、武雄高校に限って言えば、定員割れしている学校の実情、また市内に1校しかないという地域の実情、2つとも一致するんじゃないかなとは思っているところもあるんですよ。例えば、その実情を勘案して、定員割れしている——定員割れしているとあんまり言うぎおかしかですね、ごめんなさい。その特色として、地域に根づいた学校づくりの観点のような感じで、せっかく武雄市に1校ある高校ですので、武雄市の地元指定枠とか、地元推薦枠とか、何かそういうことをお願いできないものかなと。聞くところによると、結構やっぱり武雄高校に、何というんですかね、もう今の学力じゃ受けても上がらんし、定員割れしておっても無理やしとかという話をやっぱり聞いたりするわけですよ。そういうのを武雄高校に武雄の子がもっと行けるような仕組みをつくれんものかなと。そこら辺、私はできることは何でもやってみるほうがいいんじゃないかと思っているので、しかも、これは立派な特色にもなるんじゃないかと思うので、これについて見解をお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

話を聞きますと、武雄の場合は非常に交通の便がいいということで、開かれた部分を強調されて言われるわけでありまして。そういう意味では、地元の枠というのは現実的には厳しいのかなというのを片方に思いつつ、ただ、県立高校でありますので、地元の意向というのはこれまでの再編等にもいろんな意味で生きてきたわけでございます。

したがいまして、今お話にありましたようないろんな声につきましては、私どもも真剣にとらえて、またお願いできる分はお願いをし、要求できる部分は要求もしていきたいというふうに思っております。ちょっとこれは検討させていただきたいというふうに思います。

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

ぜひよろしく願いいたします。

それでは、次に入りたいと思います。

武雄市の集客力向上についてというところで今回通告をさせていただいておるんですが、毎年、さまざまな取り組みを行っていただいております。先日も2月13日、14日と行われておりましたが、TAKEO・世界一飛龍窯灯ろう祭りですね。まず、これについて総括的な感じで簡潔に御答弁をいただきたいなと思っています。具体的に来場者数はどの程度ぐらいあったのかとか、そこら辺お願いします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは百点満点の200点だったと思いますね。来場者数が、これは11日、12日ですね。

〔3番「ごめんなさい」〕

11日が5,000人、12日が7,000人で、しかもこれは、来られた方はおわかりになると思うんですけど、雪が降ったり、雨が降ったり、しかも氷点下になったり、もう大変なときだったんですね。その数字を確保できたということは、やはり驚くべき数字だと思いますし、去年の7,000人、これは合計7,000人からすると1.7倍の集客になりました。これは、地元の皆さんたちの御協力もさることながら、うちの職員が一生懸命頑張ったわけですね。ですので、それが本当の意味での市民協働につながってこれだけの効果をもたらしたということで、しかも今回見ていて思ったのは、リピーターの方が多いんですね。リピーターの方が多い、しかも来た方がツイッターとかで発信をして、それが翌日の観光客増につながっているという意味では、きちんとやっぱり本物のことをやると、本物をわかる人たちが口コミでまたつながるということを私自身も体感した次第でありますので、そういう意味でいうと、重ねてでありますけど、百点満点で200点。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

前年度7,000人が今回1万2,000人、1.7倍ってすごかですね。聞くところによると、前田副市長が実行委員長。

〔市長「そうです」〕

組織をつくって、半年ぐらい、もう準備をずっと根気よくされて頑張られたという話も何

っております。もう本当に、私はやっぱり伸びる事業というのは、それなりに皆さんも頑張っていたいておるし、その魅力自体もやっぱりあると思うんですね。事業としてもすばらしいものだと思います。これが、やっぱり武雄は観光のまちなので、これも観光につなげてほしいなというところで、それが実際どうだったのか。それと、これだけ集客ができる事業をしたのであれば、やっぱりこれも市民の人たちには利益につなげてほしかわけですね、ビジネスとして。やっぱり事業に乗かって、武雄市民ももうちょっと頑張って、おいどんも商売ももうちょっと利益を出せるように頑張ってみようって、こう市民一体の盛り上がりもやっぱりもっと欲しいところがあるんですけど、そこら辺も多分取り組みがなされているんじゃないかなと思いますけど、これについてはどうでしょうか。御答弁願います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御指摘のとおりです。当日は出張楼門朝市で、あと釜の中のカフェ、これはおかしいと言っている人もいるみたいですけど、焼き物の展示、市内特産品の販売で実際収入増につながっております。一方で来場者のアンケート、これは旅館等の聞き取りなんですけれども、市内宿泊施設への宿泊にもつながっています。したがって、これはやっぱり2日間やるということが宿泊につながるのかなということを思っていますし、じゃ、これが市民全体として盛り上がったかと、それはまだですね。やっぱりこれ、装いを新たにしてやったのがたかだか3年か4年かちょっと、何年だっけ。（発言する者あり）3年ですので、そういう意味でいうと、やっぱり次のステップとして市民総ぐるみになるのかなということを思っていますし、いきなり市民総ぐるみって、それは無理なんですね。だから、こういうふう成功体験をやることによって、いや、これはビジネスにつながりますよ、参加して楽しいですよということが一つの大きな金字塔になったと思いますので、次がその段階だと思っています。したがって、いい方向にこれは行っているんじゃないかなというふうに重ねて感謝を申し上げたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

いや、もう実際そうだと思うんですよ。1万2,000人という集客が、来ているということが、ここでこう議論することが、また来年の灯ろう祭りに、ああ、そがんよんにゆう来んさんなら、おれたちもちょっとかたって、どがんか協力できることしてみろうかと、この流れをつくらんといかんちゃんないかなと私も思っています。宿泊についても、私も地元の関係者の皆さんにちょっとちょこちょこ話を聞いたところ、やっぱり若いカップルだとか家族連れというのがかなり目についたと。それだけ多く来んさったよと。そこの人が1つ言いよんさ

ったとが、灯ろう祭りのビラに住所じゃいの入っとらんやっただ。そいけん、カーナビで検索しんさって、電話番号とかは入ったけんが、そのカーナビのレベルに応じて、出るカーナビと出ないカーナビがあったと。そこはちょっとぜひ伝えておいてくれということやったけんが、そこら辺はぜひ伝えておきます。それから、宿泊につながるということは、もう非常にいいことだと思いますので、ぜひまた頑張ってくださいなと思っています。

その集客について、またちょっと別の視点からですけど、私が常々申し上げているスポーツ振興についてであります。

武雄市でもプロ選手のキャンプを誘致したいところなんですけど、やっぱり今の武雄では施設の不備もあってできないわけですね。残念なところなんですけど、そういう中でも、今度、自主トレレベルと言うとちょっと語弊がありますが、自主トレで中日ドラゴンズの昨年度MVPの和田選手、毎年来てくんさあわけですね。担当課の皆さんも非常に頑張っておられます。そういう自主トレを誘致するということは、市としてどのような考えを持たれて取り組みをされているのか、また実績等があれば答弁をお願いしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

今、議員御案内のように、和田選手、14年間ずっと西武時代を含めて来ていただいています。そういうことで、非常に武雄としては喜ばしいというふうに思っていますし、和田選手と一緒にオリックスの赤田選手とか、西武の後藤選手、野田選手、黒瀬選手も来ていただいたところでもあります。今年度、新たに女子プロゴルファーの綾田選手が来ていただきました。約9日間来ていただいたわけでもありますけれども、ただ、この間、来ていただいたということだけじゃなくて、いろんな市民の皆さんとの交流もしていただきましたし、それからたけおスポーツクラブのいろんなゴルフ教室とか、こういうお手伝いもしていただいたところもあります。具体的にマニュアル的なものはないんですけども、今回のことも考えながら、やっぱり武雄にできるだけ来ていただくようにということをPRしていきたいというふうに思っていますし、来ていただいた選手についても応援等をしながら武雄をPRしていただければというふうに考えているところでもあります。

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

いや、もう本当にありがたいことですよ。この武雄は、私も話をしたことあるんですよ。何で自主トレ来てもらわるとですかと。やっぱり温泉とおいしい食べ物、それと人と言ひんさあです。施設のああぎんたキャンプでもよかつちやなかですかねという話は私も何度も聞いております。そこんたいは皆さんの胸の中にまず入れておいていただければなと思って

います。

そういう中で、各方も頑張っていたに感謝申し上げるところなんですが、今度、ちょっとまた別の視点から、平成23年度国民体育大会第31回九州ブロック大会夏季大会、通称九州ミニ国体が佐賀県を中心に行われるわけです。会場分布図を私も取り寄せてみました、一覧表をですね。見渡すところ、武雄市がなかわけですよ。唐津市とかみやき町、白石町、佐賀市、鳥栖市、多久市、小城市、神崎市、基山町、上峰町、有田町、江北町、嬉野市とかあるんですけど、残念ながらそこに武雄市の文字はありません。もう決まっているところですので、今さらひっくり返しても何もならん、そういうことは一切考えていないんですけど、やはり競技の開催ということで武雄に持ってこれれば、武雄の集客力というのも一気に上がる場所もあるんじゃないかなと。今回、競技開催が無理でしたので、次に考えることといえば、やっぱり近隣の地区の競技の応援団なり関係者の取り込みが武雄には求められてくるんじゃないかなと思っておりますけれども、これも恐らくもう既にいろんな方々と連携されて取り組まれていると思いますけど、これについての実情をお聞かせ願いたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

渚野営業部長

○渚野営業部長〔登壇〕

今年8月に県内で開催されます国体九州ブロック大会において、市内で競技が行われないというのは非常に残念であります。このようなことから、観光面からは、観光協会、旅館組合、観光課の3者合同で、今回、宿泊施設を持たないところの有田町、白石町などで競技が開催されるために、競技者及び関係者の武雄市内への宿泊について、県の教育委員会、県体育協会、大会をお世話する旅行業者に直接宿泊のあっせんをお願いに参ったところであります。今後、競技誘致につきましては、施設面、競技団体の熱意など、条件にもよりますが、できるだけ早い段階で情報を入手し、武雄の宿泊につなげていきたいというふうに思っています。

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

もう本当にそうですよ。もうとにかく情報を先にとった者勝ちというような状況ですよ。熱意がまたあればと。これは、以前はやっぱり今の武雄に泉都武雄という大会を誘致する会、泉誘会がありましたけど、今はそういうのもなかわけですよ。ぜひその辺の情報をうまくリンクさせて、情報をつかんだらすぐに動けるようなプロジェクトチームづくりというのがあった方がいいんじゃないかなと私は思っています。

それと、ちょっとまたこれも別の話になりますけど、武雄市では今、武雄ファイターズさ

んというチームが中心になって、還暦野球とか古希野球といった生涯野球で武雄を活性化、また高齢者の生きがい、さらには健康づくりをという取り組みが積極的に行われていると思いますが、こういう取り組みについて、これも市民の人たちからこう出てきて、がんとしゅうさというような感じで出てくること自体に、市長、どのように感じられるか、答弁をお聞かせ願いたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

還暦野球等、市民の間からの盛り上がるの部分というのは非常にうれしいことだと思っていますし、それを後押しするという事は、本当に武雄のスポーツの振興にとってはもう最大のことだと思っています。ただ、その前に、さっきちょっと部長の答弁で僕が納得いかないのは、熱意だけじゃ、これはだめなんです。要するに施設がないと、どんなに頑張ってもそれは無理です。じゃ、武雄にその施設が、願うような施設があるかって、ないわけですよ。しかも、じゃ、それをつくればいいじゃないかという話になるかもしれないんですけど、うちは訴訟も抱えているとおりに財源がない。だから、それを、やっぱりいろんなことを考えた場合に、うちはどういうふうな特色があって、それを熱意として具体的に、武雄を関与すればこういうふうないいことがありますよということについてきちんとやっぱり言う必要があるだろうというふうな認識をしております、この部分は議員と認識は一緒だと思っております。最後にしますけど、還暦野球は、すみません、ちょっと水面下でまだ進めていますので、あんまり表に出ると、ちょっとほか、これはユーストリームで全部流れていますので、ちょっと水面下でさせていただければありがたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

市民の皆さんからいろんなアイデアが出てきたときに、やはりプロジェクトチームをぱっとつくって動けるような仕組みづくりが必要なんじゃないかなと思っています。これは、さきの議会でも別の議員のほうから一般質問があってございましたけど、私もそこに視察に一緒に行ったところですけど、兵庫県の明石市に行ったわけですよ。そちらではプラモデル甲子園というのを銘打って観光客誘致の事業がなされておりました、官民一体となった取り組みによって実現をしておられると。その事例を参考にすると、これもやっぱり市民の皆さんからの発案で、行政がバックアップするという仕組みづくりで、行政からは兼務辞令というような形で兼務辞令を発する体制が確立されているわけですよ。どういうことかということ、プラモデル甲子園の実行委員会の中に8名いらっしゃって、4名が行政の職員の皆さんと。その4人のうちの1人は秘書課、もう1人が企画やったですかね。あと2人が、中学校の先生

と市民病院の先生やったか、職員やったか、ちょっと忘れちゃったけど、この4人。この4人の皆さんが積極的に動けるように辞令を出されて、だから、中学校の先生なんかも自分の授業と授業の間に会議に出ていくということも、その辞令をもらっているんで、これも私の仕事ですということで行かれていますというような仕組みをつくられていたんですよ。

だから、ぜひそういう事例を参考にして頑張っていたいただきたいなと思っているんですけど、武雄市では来年度の4月からつながる部というところで創設を検討されていると思いますけど、そのつながる部がどういう役割をするのか私もちょっとわかりませんが、できれば、何というんですかね、プロジェクトチームをつくるための橋渡し役の役割もぜひ担ってほしいなと。できれば九州ミニ国体の応援団を獲得する母体とか、きょうの午前中の質問でもありましたけど、B-1グランプリを誘致しようとか、温泉deビートルズ、これも議員、一生懸命やられている方もいらっしゃいますけど、ぜひそういうふうな市民の皆さんからの要望が上がるときに、そこを経由して、職員の皆さんもまた趣味を生かしてマッチメイクするというような動きができないものか、そういうところまで考えられているのか、答弁をお願いしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、一重に二重にこの話というのは市民感情の問題だと思いますよ。例えば、プラモデル甲子園のことを例にして出すと、職員というのは顔がもう、皆さんやっぱり400人ぐらしかいませんので、みんな知っているわけですよ。そうすると、本来の仕事はこっちなのに何でこいばしよんさっとか、これは辞令を出す出さないの話じゃなくて、市民の皆さんたちがこれでいいんだという、その土壌がないと、これはやっぱり我々としては怖くてできないんですね。ですので、私は任命権者ですので、基本的には考えは一緒です。ですので、例えば、今、秀島佐賀市長がおっしゃっているように、公務員は一人二役でなければならぬと。あるいは今度、古川知事が飛び出せ公務員ということで、僕もちょっと入ろうかなと思っているんですけども、そういう首長連合をされるときに、そういうふうには仕事が終わった後に自分のボランティア精神として出ていく、あるいは職務免除として出ていくといったときに、そういうふうなのが第1段階としてはなじむんじゃないかなということをおもうんですよ。私も、例えば公務員の諸君といろんなところへ行ったときに、あなたたちよかねと、給料もらってこればしよんとでしよう、やっぱり言わるとですよ。これがいいとか悪いとかは言いません。ですので、公務員というのはそういう目で見られているということだけはぜひ御理解をしていただきたい。その上で、重ねてでありますけれども、市民感情として、いや、それがこれからの世の中としていいんだということになった場合は、これは考えは一緒ですので、その分には積極的にそういうふうにしていく。その仕掛けづくりをつながる部

に、今度新たに創設しますので、主な機能として持たせようと。今でもやっていないわけじゃないんですけれども、さらにつながる部というのはつなげて何ぼですので、そういう機能をきちんと持たせたいと、このように考えております。

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

いや、もうおっしゃるとおりだと思います。もちろん大義名分がやっぱり大前提にあるわけで、つながる部でこの指とまれこの指を出してほしいなというようなところもぜひ私の気持ちの中にあるもので、お願いしたいと思います。

集客力についての最後の質問ですけど、先ほどからイベントをツイッターとか、ブログとか、情報発信ツールとして非常にいろんなことを取り組まれている。「市長物語」というブログから始まって、ツイッターでも市長のツイッターがいろいろあって、今は、今度フェイスブックがまた入ってきてというところで、私もブログをやっているの、ブログはもちろんすんなり受け入れられる。ツイッターが入ってきたときに、ツイッターって何というところから、もう私も一からスタートやったんですよね。なかなか私もまだツイッターで自分で書き込み、ツイートというのはできないんですけど、人のツイートを見て、情報収集のほうに利用させていただいておりますけど、今回またそういう中で出てきたフェイスブックですね。市のほうであった初級コースを私も受講しましたが、いまいちやっぱりまだわかつたらんところが多々あるとですよ。結構私みたいな人がいるんじゃないかなと聞いたら、そういう話もやっぱりちよくちよく聞くわけです。はっきり言って、フェイスブックというのが一言で言うと何なのか。私、イメージしたら、実名版のツイッターという感じなのかなというところもあるし、またそこら辺が、私の中でなおさらわからんやっとなが、武雄市のホームページのフェイスブック化とかというような話もあって、ますますわからんごとなってきよるわけですよ、フェイスブック自体をまだ理解していないものですから。そこら辺は今後どう変わっていくのか、どう考えられているのかを御答弁お願いしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、もっともな御指摘だと思うんですよ。フェイスブックというのは、あれは日本語で訳すと「卒業名鑑」という意味なんです。だから、例えば、私は武雄高校の卒業でありますけれども、武雄高校の卒業名鑑を見ると、私の顔があって、名前があって、あの当時は住所があって、重ねて言うと、そこに出身中学校とか、出身小学校とか、あと趣味とかというのが、その電子版がフェイスブックなんです。だから、フェイスブックを「顔の

本」と訳すからだめなんですね。あれは卒業名鑑なんですよ。だから、アメリカ人の2人に1人が使うというのはよくわかるんですね。卒業名鑑プラス卒業文集がフェイスブックの本当の訳です。私は日本フェイスブック学会の会長ですから。

その上で、そのフェイスブックというのはどういうことかということ、こういうことがありました。私は朝日小学校を卒業しました。そのときに、ちょうど一月ぐらい前にフェイスブック、私のフェイスブックのページですよ、そこにお知らせというのが来たんですね。何とか何とかさんは、あなたの同級生じゃありませんかと。その女性はもう結婚されているわけですよ。しかも、名字が変わっているわけですよ。実は思い出したら、小学校1年生のときにおうちの事情で、もう県外に去られているんですね。その女性からフェイスブック社を通じて私のところにお知らせが来たんです。この人とお知り合いじゃありませんか、同級生じゃありませんかと。それは何でそれがわかるか、フェイスブック社がわかるかということ、それは生年月日を入れていますよね。向こうも生年月日を入れている、私も入れている。しかも出身小学校を入れている。となると、それを自動的にマッチングしてお知らせする機能がある。焼けぼっくいには火はつきませんよ。ですが、こういうことができるのかと。だから、私は武雄高校を卒業して、あるいは武雄中学を卒業して一度も会っていない方とフェイスブックで今やりとりをしています。あるいは一緒に、これは韓国人の方なんですけれども、ウィーンで一緒に旅行したことがあります。男ですよ。旅行したことがあって、そのときに、全くもう面識ないんですよ。だけど、フェイスブックでお友達じゃないですかというふうに来るんですよ。それは何でこれが可能かということ、実名登録なんですよ。だから、卒業名鑑とか、卒業文集がネットの上であると。それをフェイスブック社が基本的に判断をする。あるいは自分でも検索します。検索したときにお友達申請を出して、申請が了解すれば、そこで交流が広まるということなんですよ。だから、これはちょっとわかりにくいかもしれませんが、ミクシイの実名版です。ですから、1回ちょっとやってみてください。やった上で、確かに使いづらいです。わかりにくいです。私も全部わかっているとは思いませんし、ころころルールも変わりますのでね。多分恐らく、先ほど申したとおり、アメリカ人の半数、2人に1人はそれをやられていると。しかも、アメリカの場合、イギリスの場合、フランスの場合は、使っているのが高齢者の方が多いんですよ。ですが、何でそれをやるかということ、要するにそういうつながりを、昔あったつながりを取り戻したいという、やっぱり欲求なんですよ。あるいは本能とか、それがフェイスブックを支えているということ。それともう1つが、これは数のとり方によりますけど、中国の人口13億人、インドの人口が12億人、フェイスブックの人口は5億人です。ですので、それでいうと日本は、きょうも中村伊知哉さんというデジタルの専門家、昔の少年ナイフの方が武雄に見えられて、今、山内、東与賀、武内に行かれていますけど、その人とちょっと昼御飯食べているときに言われたのは、フェイスブックが本当に広まるかどうかというのはちょっとよくわからないねということは

おっしゃっていました。ですが、私とすれば、このつながるという機能を、もちろんアナログというのは大事です。一番大事です、フェース・トゥ・フェースが。だけれども、なかなかアナログでつながりにくい人たちというのは、この武雄でもやっぱりふえているんですね。ですので、行政としてやっぱりつながるというツール、実名でつながるということからして、フェイスブックに力を入れようと思った、判断をいたしました。

その上で、何でホームページをフェイスブック化するかということなんですけれども、実はホームページだと、いろんな意見というのは来るんですよ。でも、実際だれが言っているかわからないんですね。成り済ましもあります。20代の女性ですけどとって子育てのことに関して言っても、これは本当かどうかわからないんですよ。けれど、フェイスブック化すると、少なくともフェイスブックの会員の人たちというのは、いいねボタンを押すだけで支持がされる、いいねとボタンを押すだけで。そして、支持がされると、この人がだれかわかるわけですね。例えば、朝日町出身の36歳の2人のお子さんをお持ちでというのがわかるわけです。そこまでわかるんです。

それともう1つは、意見を書き込むことができるんですね。だから、例えば、ひとり親政策を何かやるとすると。そのときに、今まではだれが意見を、批判をしているかわからなかった、賛成をしているかわからなかった。今度のは、もうぐるなびと一緒にですよ。例えば、メニューとして政策を出したときに、だれがどういうふうに言っている、地域別までわかります、お住まいのところも書かなきゃいけないから。例えば、若木町で賛成が多いけれども、武雄町で反対多いよねと。そうすると、それが政策として反映できるわけですね。だから、やっと技術が我々の思いに追いついてきたと。これを使わない手、ただですので、使わない手はないじゃないかと思っています。

そういった意味で、私は全部を全部フェイスブック化するか、ツイッター化するというのは考えていません。あくまでもアナログが一番大事です。それを補完し、助けるものがデジタルだと思っていますので、人間、アナログですから、それを補完するという意味として果敢にして、これは行政の私は役割だと思っていますし、武雄モデルをつくりたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

一言で言うと卒業名鑑がどうつながるか、今、何となく聞いていてわかりました。要は、実名でのパブリックコメントもとりやすいような環境にもなるということですね。そういうことですね。なるほどですね。今聞いて、何となくわかってきました。いや、私もアカウントはとっているんですけど、そこから先どうしていいかわかっていないような状況でですよ。

集客力には、直接的にはフェイスブックとか、ツイッターとか、ブログとかって関係ない

かなと思われる方もいらっしゃるかも知れませんが、やっぱりこの辺で情報発信することが武雄の集客力に物すごく直結していると思って、今回こういう質問をさせていただきました。

今後の課題としては、これも以前の議会でも申し上げましたが、イベントの重複というのがやっぱりあるかなと思うわけですよ。今回もフットサルがかぶったりと、これはもう例年ですもんね。イベントミックスという考え方はもちろんわかりますよ。もう一緒にしたほうがどっちも集客が見込めるというようなところもあるかも知れませんが、それはそれと置いておいて、今回、教育講演会もまた入ってきておるわけですよ。そいけん、できるだけツイッターとか、フェイスブックとか、ブログとか、この辺を活用して、できるだけイベントの重複を避けてもらって、可能な限りたくさんの方の市民の人たちがこれにも行きたか、これにも行きたかというようなことに対応できるような活用を願ひまして、私の質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。